

レーシングシアター「レジェンドオブ鈴鹿」
新企画展のご案内

～Honda F1 挑戦の軌跡～

鈴鹿サーキットはこのたび、レーシングシアター内の「レジェンドオブ鈴鹿」をリニューアルいたしました。今回のテーマは「Honda F1 挑戦の軌跡」。2015年の今年、Hondaが7年ぶりにF1に参戦し、英国マクラーレンチームとともにマクラーレン・ホンダとして新たなスタートを切ります。ジェンソン・バトン、フェルナンド・アロンソというチャンピオン経験者を揃えたドライバーラインアップは他のどのチームよりも強靱と言われ、その活躍が大いに期待されています。その活躍に期待を込め、1964年の初参戦以来3期に渡ったHondaのF1挑戦を当時のマシンとともに振り返り、新たな挑戦に思いを馳せる内容となっています。

展示車両紹介

■ホンダ RA301 (1968年) ※2015年3月8日(日)まで

1964年に第一歩を記したHondaのF1挑戦。1968年まで5年に渡った参戦の最後を飾ったホンダRA301。3000ccV型12気筒エンジンを搭載したこのマシンは当時のF1最高のパワーを誇り、リアウイングは第7戦イギリスGPから装着された。フランスGPでの2位を最高位に、HondaはこのシーズンでF1活動を休止した。



■ホンダ RA273 (1966年) ※2015年3月9日(月)～

エンジン規定が1500ccから3000ccに変更された1966年のシーズン後半に登場したRA273。400馬力以上のV型12気筒エンジンは、ライバルチームのV8エンジンとは、まさに桁外れのパワーだった。結果はリタイヤとなったが、デビューレースとなったイタリアGPでは一時2位に上がる速さを見せた。



■ウィリアムズ・ホンダ FW11B (1987年)

Hondaがドライバーズ、コンストラクターズ初のダブルチャンピオンを獲得したマシン、ウィリアムズFW11B。1987年に初めて鈴鹿で開催されたF1日本グランプリではナイジェル・マンセルがクラッシュし、その瞬間ネルソン・ピケのチャンピオンが決まるなどのエピソードで、今もファンの思い出に残るマシン。



■ジョーダン・ホンダ EJ11 (2001年)

2000年にB・A・Rにエンジンを供給する形で始まったHondaの第3期挑戦は2001年からジョーダンチームにも3000ccV型10気筒エンジンを供給。ヤルノ・トゥルーリ、ハインツ・ハラルド・フレンツェン、ジャン・アレジャらがドライブしたマシンで、開幕以来高い完走率で入賞を果たし、コンストラクターズ5位を獲得した。



「～Honda F1 挑戦の軌跡～」開催概要

■開催期間: 2015年2月13日～2016年2月中旬(予定)

■場 所: 鈴鹿サーキット レーシングシアター内「レジェンドオブ鈴鹿」

※レーシングシアターのご利用にはお一人様800円またはゆうえんちモトピアバスポートが必要となります。